

Japanese Working Class Artist ~ RYO KANZYU



短い物語P&D

今は昔／世界の果て～底へ



ORIGINAL
SINGLE

しばらくすると、白い檻の中から声が聴こえてきた。

「ここから出して。暗いのは嫌」

少年は驚いたが、恐がりではなかった。

可愛いらしい女の子を想像しながら、自分が有利な状況であることを楽しんだ。

少年は勝ち誇り、正体を明かすように意地悪く要求した。

すると声の主は「ジャンケンをしませんか」と言い出した。

「勝負は一度だけ。あなたが勝てば正体を教えます。ひとつだけですが、願いも叶えてあげます。だから逃がすと約束して」

「観念したか」と少年はニヤリ。

拒否することもできたが、負け続けたとしても蝶は逃げられない。

少年は口だけの約束を交わし、すぐに忘れた。

「さあ始めよう」とリードするつもりだった少年。

けれど、ジャンケンの相手は彼女ではなく鏡の住人だという。

そういわれて一瞬の沈黙。

それでも直ぐに思い出したのは、おばあちゃんが使っている縦長の大きな鏡。

それは彼の手の届くところにあった。

少年は左手でティーカップをしっかりと押さえたまま、右腕を伸ばした。

勢いよく古い姿見のカバーをめくる。

やがて鏡の中心から湧き水のような波紋を広がり、白く塗られた顔のピエロを映し出した。

背格好は少年と同じくらい。

対戦相手はしゃべることなく、手振りで「勝負しよう」と伝えてきた。

少年が準備する暇もなく、すぐにそれは始まった。

「ジャン、ケン、ポン！あい、こで、しょ！ジャン、ケン、ポン！

あいこで……」

瞬く間に左利きのピエロのペース。

確率なんて無視するかのようにならぬ「あいこ」が続く。

監禁した蝶のことも忘れてしまうくらいに。

熱を帯びた少年は、右手をナイフのように繰り出す。

でも勝てない。

負けることもない。

だって、勝てるわけがない。

鏡に映っている相手が、誰なのか知ったとしても。 ～終わり

~~~~~

～

【画】

□タイトル(Title) : 『今は昔』

□作家名(Artist) : 環樹涼(RYO KANZYU)

□制作年 : 2013

□技法 : ボールペン

□作品サイズ(縦×横) : B4サイズ相当の画用紙を使用。

縦19cm × 横14cmの枠内に描画。

## 作品データ

---

### 【作話】

■タイトル(Title) : 短い物語P&D 『今は昔』

■作家名(Artist) : 環樹涼(RYO KANZYU)

■制作年 : 2013

※物語はブックログのpapierにて電子書籍として配信しています。Kindle・Koboからも配信中！

~~~~~

【画】

■タイトル(Title) : 『今は昔』

■作家名(Artist) : 環樹涼(RYO KANZYU)

■制作年 : 2013

■技法 : ボールペン&鉛筆

■作品サイズ(縦×横) : B5サイズ相当の画用紙を使用。
縦19cm × 横14cmの枠内に描画。

汚れた歩道を空き缶が転がっていく。

風がひとり遊ぶ夜。

オレは歩いていた。

それは中心が移動すること。

すなわち世界が動く。

要らないものは外へ放り出すのが決まり。

吸い殻は足下へ。

紙屑は後ろへ。

釣り銭は……任せた。

今日は出張。

宿泊しているホテルに戻る前に一杯。

契約先のメンバーと同期の仲間。

それなりの肩書きが心地よくもある席だった。

その帰り道、寂しく感じる街並があった。

夜空が、いつもより広い。

ただ高層ビルが少ないだけ。

それだけのことなのに、世界の果てがすぐそこにあるように感じる。

あの建物の向こう側には、何も無いんじゃないか。

好んで飲まないオレの足取りは仲間より少しだけまし。

だから、遠くを見ながらでも群れから遅れることはなかった。

そうやってしばらく歩いていた。

そして、何かにぶつかった。

いや、誰かに。

右肩に軽い衝撃。

そこまでしか覚えていない。



誰もが手を放す時が来る。

「お前とは縁を切る」

それでも“手を差し出す”ヤツがいると信じている男。

いなかったとしても、誰かが“手を差し伸べてくれる”と信じている。

そんな勝手な想い。

思い出せば、いつも一言余分。

目が合えばすぐに発火。

先に手が出る悪い癖。

偽りの握手で、手に入れたモノ。

企てた感動話。

人工の涙。

「戦場を想像することができますか」と、ナレーションに問われた時の不快感を思い出した。

日に日に増す怒りの旗を掲げて、オレだって戦っていたんだ。

永遠ってのがあるけど、オレには突然の終わりか。

だけど敗因なんて考えたくない。

今までの稼ぎだって数えたくない。

気取って歩いた道程が恥ずかしい。

もう先には道が無いらしい。

滝の如く落ちる先に海も無い。

下に見えるのは、憎しみに紅く震える炎。

煮えたぎる器を支えている。

見えそうで見えない中身。

この大地から見放された時、ここがオレの「世界の果て」らしい。

ここから墮ちるのか。

それとも、ここで思いとどまるのか。

誰かの声が聞こえてきた。

オレを何度も呼んでいる。

大丈夫だ、まだ戦える。 ～終わり

~~~~~

【画】

□タイトル(Title)：『世界の果て～底へ』

□作家名(Artist)：環樹涼(RYO KANZYU)

□制作年：2008

□技法：ボールペン

□作品サイズ(縦×横)：B4サイズ相当の画用紙を使用。

縦19cm × 横14cmの枠内に描画。

## 作品データ

---

### 【作話】

■タイトル(Title) : 短い物語P&D 『世界の果て～底へ』

■作家名(Artist) : 環樹涼(RYO KANZYU)

■制作年 : 2008

※物語はブックログのpapierにて電子書籍として配信しています。Kindle・Koboからも配信中！

~~~~~

【画】

■タイトル(Title) : 『世界の果て～底へ』

■作家名(Artist) : 環樹涼(RYO KANZYU)

■制作年 : 2008

■画材 : ボールペン、鉛筆、画用紙、スプレー

■作品サイズ : B5サイズ相当の画用紙を使用。縦19cm×横14cmの枠内に描画。

■販売価格 : 10,000円 (税込)